





# 養殖マグロ

## 新たなビジネスとして脚光

ここ数年、マグロの国が急がれる。

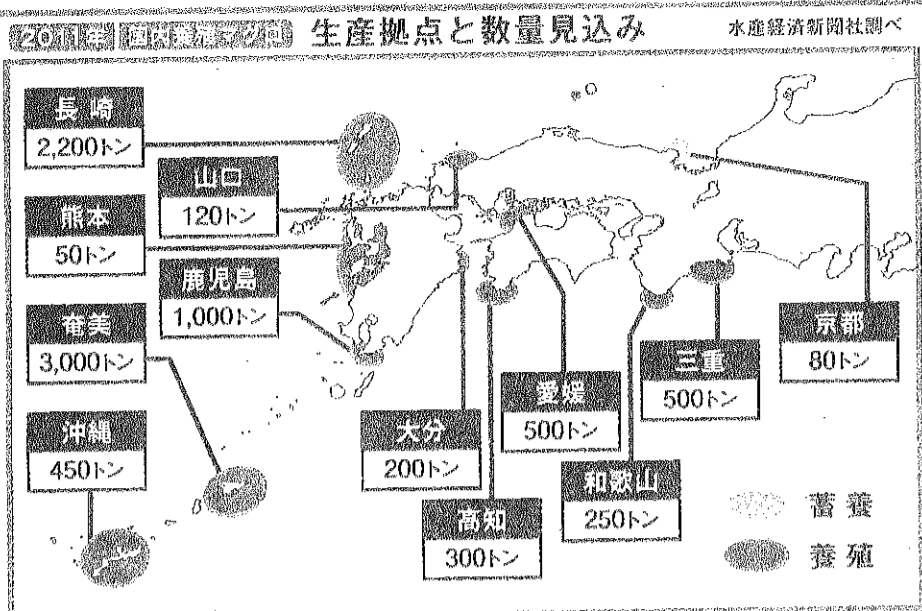
国際規制の強化とともに国内でのクロマグロ（養殖含む）養殖がにわかに注目され始め、大手資本、地元有力養殖業者など各社が相次いで参入、新たなマグロビジネスとして脚光を浴びている。昨年から今年にかけて初出荷を迎えた会社もあり、今後もその動きはとどまることなく急がれる。一方では、資源管理の方向性も徐々にまとまりつつあり、完全養殖技術の確立、差別化を図りながら

出荷を始めている。

極洋は高知県宿毛港で始めたキョクヨーマリンファームに次いで、愛媛でも養殖事業に着手し、「本まぐろの極（きまぐろ）」は順調な出荷を行っているほか、マリックスは愛媛の辻水産と3つのLP、宇和海漁業生産組合との共同出資により立ち上げた宇和海マリックスファームが養殖マグロ事業に参入し、「宇和丸」ブランドは回転寿司などに対し順調な販売を続けている。昨年は長崎で養殖を始めた商社の双日が出荷を行なったほか、東洋冷蔵も近々初出荷を予定している。また、近畿大学との取り組みも最近増加し、豊田通商が長崎五島につくったツナドリム五島やプリミエの「天空マグロ」ブランドなど養殖マグロも百花繚乱といった様相となってきた。1万トという数字はこれまで一つの生産目標値とされてきたが、今年約7000トの生産が予想されており、徐々に1万トに近づきつつあるようだ。

出荷を始めている。

極洋は高知県宿毛港で始めたキョクヨーマリンファームに次いで、愛媛でも養殖事業に着手し、「本まぐろの極（きまぐろ）」は順調な出荷を行っているほか、マリックスは愛媛の辻水産と3つのLP、宇和海漁業生産組合との共同出資により立ち上げた宇和海マリックスファームが養殖マグロ事業に参入し、「宇和丸」ブランドは回転寿司などに対し順調な販売を続けている。昨年は長崎で養殖を始めた商社の双日が出荷を行なったほか、東洋冷蔵も近々初出荷を予定している。また、近畿大学との取り組みも最近増加し、豊田通商が長崎五島につくったツナドリム五島やプリミエの「天空マグロ」ブランドなど養殖マグロも百花繚乱といった様相となってきた。1万トという数字はこれまで一つの生産目標値とされてきたが、今年約7000トの生産が予想されており、徐々に1万トに近づきつつあるようだ。



資源管理の重要性も  
しかし一方で、養殖マグロが今後、安定供給を

日刊水産経済新聞  
1月28日

# 今年を上昇基調

## 中国など旺盛な需要背景

### タイ国、ベトナム増産でも

今年のエビ価格は、中国などの旺盛な需要を背景に、増産となっても上昇基調で推移する見通しだ。昨年はメキシコ湾の原油流出事故を受け産地価格が急騰。主力産地のタイ国、インドネシア、中国でも洪水や気候の影響から減産し、日本側水産会社は原料確保に難航した。今年には各産地では増産が計画されているが、注目を集める中国をはじめ、世界各国ではこれを上回る消費が予想されている。

1/3月期はブラックでは「タイ国産のパナメ後為替が円安に振れると高まりが各国で予想されタイガー、バナメイトもイは下がっても、7月前と比べると「買い負け」ている。米国の買い意欲も弱く半（1/2当たり）まででに限り、日本だけが取り残されることになりかねない」と危機感をあらわさないとの見方を示す。

5月以降の盛漁期に關して、ノース水産事業本部の鍵山裕久副本部長は「マレーシアのアクロベは「インドネシア、タイも始まっている。中国は国、ベトナム、インドも増産し、全体では昨年の生産量より50万ト程度はプラスされるのではないかと試算する。それでも、価格に關し、また、中島部長は「今

## エビ価格

### 各社好調 エビ 年末販売

#### アルゼンチンアカなど 業務、量販ともに良好

昨年末のエビ販売は、前年の販売実績をクリアしたところが多かった。国内で最大量のエビを扱うマルハニチロ水産では、金額、量ともに昨年対比で105%、ノースイでも12月の販売量は112%だった。

マルハニチロ水産では、回転寿司で人気の高い伸ばしエビや、業務筋で安定的に販売量

を伸ばしているエビが奏功したとの分析を示す。また、マルハニチロ水産が高級品質品として製造、販売しているマレーシア産アグロペスト社のエビも有頭ポイル品などの認知が高まり、販売量も伸ばした。

一方、ノースイでは外食関係の販売が特に好調だった。水産事業本部の鍵山裕久副本部長は「伸ばしエビや、業務筋で安定的に販売量

伸ばしエビや、業務筋で安定的に販売量

日刊水産経済新聞  
1月26日

